

**IBM InfoSphere DataStage and
QualityStage**
バージョン 11 リリース 3

**接続ガイド: IBM Red Brick
Warehouse 編**

IBM

**IBM InfoSphere DataStage and
QualityStage**
バージョン 11 リリース 3

**接続ガイド: IBM Red Brick
Warehouse 編**

IBM

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、21 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： SC19-4259-00
IBM InfoSphere DataStage and QualityStage
Version 11 Release 3
Connectivity Guide for IBM Red Brick
Warehouse

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 1997, 2014.

目次

第 1 章 概要	1
対象読者	1
Red Brick Load ステージの概要	1
環境の構成	1
Red Brick Load とパラレル・キャンバス	1
ストリング・データのマッピング	2
第 2 章 Red Brick Load ステージ	3
機能	3
用語	3
処理のモード	4
制御ファイル	4
Red Brick Warehouse のロード	5
入力プロパティ	6
付録 A. 製品のアクセシビリティ	9
付録 B. コマンド・ライン構文の読み方	11
付録 C. 構文図の見方	13
付録 D. IBM の窓口	15
付録 E. 製品資料へのアクセス	17
付録 F. 製品資料に関するフィードバック の提供	19
特記事項および商標	21
索引	27

第 1 章 概要

InfoSphere® DataStage® には、Red Brick Warehouse に表を一括でロードする (バルク・ロード) 機能があります。このトピックでは、Red Brick Load ステージの概要およびインストール方法と構成情報について説明します。

対象読者

このガイドは、Red Brick Load ステージを使用するジョブの作成や変更を行う InfoSphere DataStage デザイナーを対象としています。

Red Brick Load ステージの概要

Red Brick Load により、高速かつ効率的に、任意の InfoSphere DataStage ステージ (例えば、ODBC ステージ、Sequential File ステージなど) から表データ・ストリームを準備し、ターゲットの Red Brick Warehouse の表にロードすることができます。

Red Brick Load は、1 つ以上のストリーム入力リンクをサポートする (ただし、出力リンクはサポートしない) パッシブ・ステージです。各入力リンクは、InfoSphere DataStage ジョブ内の別個のバルク・ロード・セッションに対応します。

バルク・ロードは、InfoSphere DataStage ジョブと Red Brick サーバーが同一物理マシン上にあるときにのみ自動実行が可能です。

環境の構成

Red Brick Load ステージのサポートに特別な環境変数は必要ありません。

Red Brick Load とパラレル・キャンバス

Red Brick Load ステージは、パラレル・キャンバスで実行できます。すべてのステージにおいて、デフォルトは順次です。「パラレル」は、ステージを並列に設定できることを意味しますが、これはデフォルトではありません。詳しくは、表 1 に説明があります。

表 1. パラレル・キャンバスでの可用性

接続ステージ	Windows のパラレル・キャンバスで利用可能か	UNIX のパラレル・キャンバスで利用可能か	使用方法 (ソースまたはターゲット、または処理用)	実行 (順次またはパラレル)
Red Brick Load		はい	ターゲット	順次

ストリング・データのマッピング このタスクについて

サーバー・キャンバスでの「NONE」マップの目的は、マップが設定されているステージでのストリング・データのマッピングをオフにすること、すなわちデータをそのまま通すことです。この機能は、パラレル・キャンバスでは処理が異なります。ストリング・データ (char、varchar など) を定義するときに、ステージの列グリッドには拡張と呼ばれる追加フィールドがあります。ここは、空白または「Unicode」に設定することができます。このオプションが空白に設定されている場合、マッピングは実行されません (すなわち「NONE」)。NLS タブで指定されているマップは無視されます。このオプションが「Unicode」に設定された場合は、NLS マップが適用されます。例えば、日本語データの読み取りまたは書き込みを行うためには、「拡張」を「Unicode」に設定してください。ジョブ・コンパイラは、この組み合わせ (char、varchar などと Unicode の組み合わせ) を検出すると、適切なランタイム・コードを生成します。

第 2 章 Red Brick Load ステージ

Red Brick Load ステージを使用して、Red Brick データ・ターゲットをロードします。

機能

Red Brick Load には次の機能があります。

- 64 ビット・ファイル・システムの 2 GB ファイル・サイズ制限を超えたデータ・ファイルのサポート。
- Red Brick Warehouse にデータをロードするための Red Brick コマンドの生成と自動的な実行。
- 区切り文字で区切られた ASCII フォーマットの間データ・ファイルの生成。
- 対応するリンクの列情報に定義されているとおりに単純ターゲット表を作成およびドロップするためのオプション (例えば、参照制約、トリガー、またはストアド・プロシージャのない表)。
- 手動実行専用データ・ファイルとスクリプト・ファイルを生成するオプション。
- 例えば、データベースを初期化するために、前処理コマンドと後処理コマンドを実行するコマンドを指定できるようにするオプション。
- NLS (各国語サポート) のサポート。

次の機能はサポートされません。

- 複雑な TMU または RISQL スクリプト (これらは、WordPad、Notepad など任意のテキスト・エディターを使用して作成できます)
- バイナリー・データ・タイプ
- データ・ファイルの固定幅レコード・フォーマットの生成

用語

次の表は、この文書で使用する Red Brick の用語をリストしています。

表 2. 本書の用語

用語	説明
バルク・ロード・プラグイン	DataStage ジョブにおけるロールが、表データ・ストリームを受け取り、それをターゲット・データベースの表にロードするパッシブ・ステージです。
制御ファイル	単一リンクから表をバルク・ロードするコマンドのファイル。制御ファイルは、TMU ユーティリティへの入力ファイルとして働きます。詳細は、"入力プロパティ"を参照してください。

表 2. 本書の用語 (続き)

用語	説明
データ・ファイル	ロードされる入力リンクからの行/列のデータで構成される ASCII ファイル。
RISQL	ウェアハウス・データベースのための SQL に対する 1 組のビジネス分析拡張機能が付いた SQL エントリー・ツール。
SQL ファイル	RISQL への入力ファイルで、標準 SQL または RISQL 拡張ステートメントから成ります。
TMU	データを Red Brick Warehouse にロードし、表、索引、参照整合性を維持する表管理ユーティリティ (Table Management Utility)。

処理のモード

Red Brick Load には、2 つのオペレーションのモードがあります。

- 「**自動モード**」。ステージは、表作成コマンド、前処理コマンド、データ・ロード・コマンド、後処理コマンド、および中間データ・ファイルの削除コマンドを実行します。
- 「**手動モード**」。「**自動ロード**」に「**N**」を設定すると、ステージはコマンドを実行しないでバッチ・ファイルに保管します。あとからバッチ・ファイルを実行してコマンドを実行できます。

Red Brick Load は、中間データ・ファイル、TMU 制御ファイル、表作成用の SQL ファイル、およびバッチ・ファイルを生成します。制御ファイル・ディレクトリーに保管されるバッチ・ファイルには、該当する場合は、前処理コマンド、後処理コマンド、表作成用 RISQL コマンド、データ・ロード用 TMU コマンド、および中間データ・ファイル削除用 Windows コマンドが含まれます。

注: 入力されたディレクトリーが相対パス名を含んでいる場合、バッチ・ファイルはプロジェクト・ディレクトリーから実行する必要があります。

制御ファイル

Red Brick Load ステージは、以下のファイルを含めて、1 リンクあたり最大 9 個のファイルを生成することができます。

- CustomCntlFile が入力されない場合は、データ・ロード用の制御ファイル
- 表作成のための SQL ファイル
- (入力) リンクからのデータを格納するための中間データ・ファイル
- 作成コマンドを格納するためのバッチ・ファイル
- 適用される場合、作成コマンド (表作成、前処理コマンド、データ・ロード、後処理コマンド、および中間データ・ファイルの除去) の各々に対するログ・ファイル

次の表は、カスタム制御ファイルを入力した場合に使用されるファイル名、カスタム制御ファイルを入力しない場合に使用されるデフォルトのファイル名、およびそのファイルの説明をリストしています。

表 3. 制御ファイルの命名規則と説明

ファイル名 (CustomCntlFile)	ファイル名 (CustomCntlFileがない場合)	説明
CustomCntlFile.tmu	database_table.tmu	データ・ロードのための制御ファイル
CustomCntlFile.sql	database_table.sql	表作成のための SQL ファイル
CustomCntlFile.dat	database_table.dat	入力リンクからのデータを格納するためのデータ・ファイル
CustomCntlFile_table.bat	database_table.bat	作成コマンドを格納するためのバッチ・ファイル
CustomCntlFile_create.log	database_table_create.log	表作成のためのログ・ファイル
CustomCntlFile_load.log	database_table_load.log	データ・ロードのためのログ・ファイル
CustomCntlFile_before.log	database_table_before.log	前処理コマンドのためのログ・ファイル
CustomCntlFile_after.log	database_table_after.log	後処理コマンドのためのログ・ファイル
CustomCntlFile_removal.log	database_table_removal.log	中間データ・ファイル除去のためのログ・ファイル

Red Brick Warehouse のロード このタスクについて

IBM® InfoSphere DataStage デザイナーを使用して、次のことを行います。

手順

1. InfoSphere DataStage ジョブに Red Brick Load ステージを追加します。
2. そのデータ・ソースに Red Brick ステージをリンクさせます。
3. 「列」タブを使用して、列定義を指定します。
4. オペレーションのモードの説明に従って、適切なロード・モードを決定します。
5. 「入力」タブに、適切なプロパティ値を追加します。プロパティ値については、入力プロパティの説明を参照してください。
6. ジョブをコンパイルします。
7. ジョブが正しくコンパイルされた場合は、次のいずれかを選択できます。
 - ジョブをデザイナーから実行します。
 - InfoSphere DataStage ディレクターを使用して、ジョブを実行するかスケジュールに入れます。

8. ジョブが正しくコンパイルされなかった場合は、エラーを修正して、リコンパイルします。

入力プロパティ

「全般」タブを使用して、ロード処理を指定します。

RedBrick Load は、IBM InfoSphere DataStage デザイナーで表示される次の入力プロパティをサポートします。次の表には、以下の列見出しが含まれています。

- 「プロパティ」は、ステージ・エディターのユーザー・インターフェースに表示されるテキストで、ジョブ・デザイナーが参照します。
- 「デフォルト」は、ジョブ・デザイナーが値を指定しなかった場合に使用されるテキストです。
- 「ヘルプ・テキスト」は、プロパティの説明です。

表4. 入力プロパティ

プロパティ	デフォルト	ヘルプ・テキスト
データベース名	なし	(必須) データベース名。
ユーザー ID	なし	Red Brick® データベースの接続に使用する名前。
パスワード	なし	データベースのパスワード。
表名	なし	ロードする Red Brick データベース表の名前。(「カスタム制御ファイル名」が指定されていない場合は必須。)
新規表を作成	はい	Y=「はい」、N=「いいえ」。リンクの列定義を使用して表を作成します。
TMU モード	挿入	InfoSphere DataStage マネージャーの処理 (追加、置換、修正、更新、および挿入) で有効な値。
区切り文字	(縦棒)	中間データ・ファイルの列を区切るフィールド区切り文字。
ロード停止となる廃棄行数	1	その数に到達するとロードが停止される廃棄行数 (0 以上の数)。
カスタム制御ファイル名	なし	カスタム制御ファイルの名前。指定しない場合は、 <i>database_table.tmu</i> という名前の生成された制御ファイルがデフォルトになります。
前処理コマンド	なし	表の作成およびロードの前に実行される Windows コマンド。

表 4. 入力プロパティ (続き)

プロパティ	デフォルト	ヘルプ・テキスト
後処理コマンド	なし	表の作成およびロードの後に実行される Windows コマンド。
中間データ・ファイルを削除	はい	Y=「はい」、N=「いいえ」。Y を指定すると、ステージが該当する After コマンドを実行後に中間データ・ファイルを削除します。
データ・ファイル・ディレクトリ	なし	入力リンクからデータを保管する中間データ・ファイルを含むディレクトリの名前。指定しない場合は、InfoSphere DataStage プロジェクトのディレクトリ名がデフォルトになります。
制御ファイル・ディレクトリ	なし	データのロード、表の作成などをするカスタム制御ファイルを含むディレクトリの名前。指定しない場合は、InfoSphere DataStage プロジェクトのディレクトリ名がデフォルトになります。
ログ・ファイル・ディレクトリ	なし	表作成、前処理コマンド、データのロード、後処理コマンド、または中間データ・ファイルの削除についての情報が入ったログ・ファイルを含むディレクトリの名前。指定しない場合は、InfoSphere DataStage プロジェクトのディレクトリ名がデフォルトになります。
廃棄ファイル・ディレクトリ	なし	TMU がロードしない行を含むディレクトリの名前。指定しない場合は、InfoSphere DataStage プロジェクトのディレクトリ名がデフォルトになります。

表4. 入力プロパティ (続き)

プロパティ	デフォルト	ヘルプ・テキスト
自動ロード	はい	<p>Y=「はい」、N=「いいえ」。N を指定すると、ステージは、中間データ・ファイルとスクリプト・ファイルの準備のみをします。ユーザーはあとで制御ファイル・ディレクトリーに保管されたバッチ・ファイルを実行してデータをロードできます。</p> <p>CntlDirectory および LogDirectory のような指定ディレクトリーが絶対パスを使用しない場合、プロジェクト・ディレクトリーからこのバッチ・ファイルを実行する必要があります。</p>

付録 A. 製品のアクセシビリティ

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況についての情報を入手できます。

IBM InfoSphere Information Server 製品のモジュールおよびユーザー・インターフェースは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM 製品のアクセシビリティ対応状況の詳細は、http://www.ibm.com/able/product_accessibility/index.html の IBM 製品のアクセシビリティ情報をご覧ください。

アクセシビリティ対応資料

IBM Knowledge Center には、製品のアクセシビリティ対応資料が用意されています。IBM Knowledge Center では、ほとんどの Web ブラウザーで表示可能な XHTML 1.0 形式で資料を提供しています。IBM Knowledge Center では XHTML を使用しているため、使用しているブラウザに設定されている表示形式で資料を表示できます。さらに、スクリーン・リーダーやその他の支援技術を使用して、資料にアクセスすることもできます。

IBM Knowledge Center にある資料は、PDF ファイルでも提供されますが、こちらは完全にはアクセシビリティ対応がなされていません。

IBM のアクセシビリティに対する取り組み

アクセシビリティに関する IBM のコミットメントの詳細については、IBM Human Ability and Accessibility Center を参照してください。

付録 B. コマンド・ライン構文の読み方

この資料では、特殊文字を使用してコマンド・ライン構文を定義しています。

次の特殊文字によってコマンド・ライン構文が定義されます。

- [] オプションの引数を識別します。大括弧で囲まれていない引数は必須です。
- ... 前の引数に複数の値を指定できることを示します。
- | 同時には使用できない情報であることを示します。区切り文字の左側の引数か、右側の引数のどちらか一方を使用できます。単一のコマンド使用で、両方の引数を使用することはできません。
- { } 同時には使用できない一連の引数を囲みます。この内の 1 つは必須です。引数がオプションの場合、引数は大括弧 ([]) で囲まれます。

注:

- 引数の最大文字数は 256 です。
- 埋め込みのスペースがある引数値は、単一引用符または二重引用符で囲みます。

例:

```
wsetsrc[-S server] [-l label] [-n name] source
```

source 引数は、**wsetsrc** コマンドで唯一必須の引数です。他の引数は大括弧で囲まれています。これは、これらの引数がオプションであることを示します。

```
wlsac [-l | -f format] [key... ] profile
```

この例で、**-l** および **-f format** 引数は、同時には使用できないもので、オプションでもあります。*profile* 引数は必須です。*key* 引数はオプションです。*key* 引数のあとの省略符号 (...) は、複数の *key* 名を指定できることを示します。

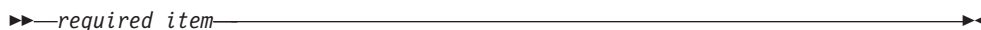
```
wrb -import {rule_pack | rule_set}...
```

この例で、*rule_pack* および *rule_set* 引数は同時には使用できませんが、どちらか 1 つの引数は指定する必要があります。また、省略符号 (...) は、複数の *rule_pack* または *rule_set* を指定できることを示します。

付録 C. 構文図の見方

本書で使用される構文図には、以下の規則が適用されます。

- 構文図は、左から右、上から下に、線に沿って読みます。以下の規則が使用されます。
 - >>--- 記号は、構文図の始まりを示します。
 - ---> 記号は、構文図が次の行に続くことを示します。
 - >--- 記号は、構文図が前の行から続いていることを示します。
 - --->< 記号は、構文図の終わりを示します。
- 必須項目は、水平線 (メインパス) 上にあります。



- オプション項目はメインパスの下に表示されます。

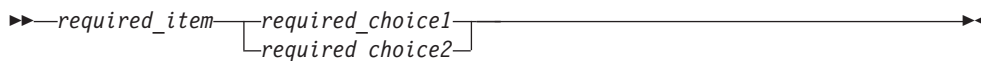


オプション項目がメインパスの上に表示される場合、その項目は構文要素の実行に影響せず、単に読みやすくするために使用されます。

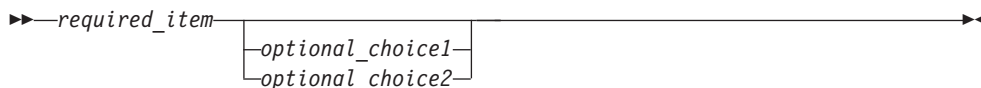


- 複数の項目から選択できる場合は、それらの項目を縦に並べて (スタック) 示しています。

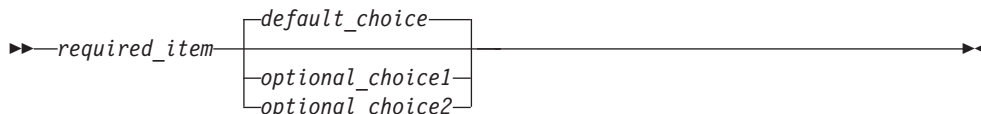
項目の 1 つを選択する必要がある場合は、スタックの 1 つの項目がメインパス上に示されています。



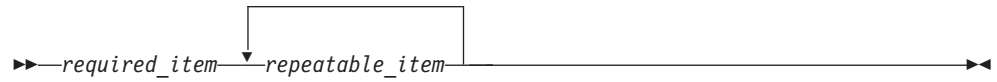
項目から 1 つをオプションで選択できる場合、スタック全体がメインパスよりも下に示されます。



項目の 1 つがデフォルトである場合は、その項目はメインパスの上に表示され、残りの選択項目は下に示されます。



- メインラインの上に、左へ戻る矢印がある場合には、項目を繰り返して指定できることを示しています。



繰り返しの矢印にコンマが含まれている場合は、繰り返し項目をコンマで区切らなければなりません。

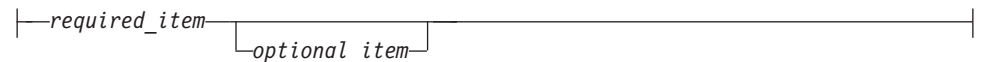


スタックの上の反復矢印は、スタック内の項目を反復できることを示します。

- 構文図が、複数のフラグメントに分かれている場合があります。構文フラグメントはメインの構文図とは別に示されますが、フラグメントの内容は、図のメインパス上にあるものとして読む必要があります。



fragment-name:



- キーワードは大文字で表示され、最小の省略形が存在する場合にはそれも大文字で表示されます。示されているとおりに入力する必要があります。
- 変数は、すべて小文字のイタリック体 (例えば、*column-name*) で表示されます。これらは、ユーザーが指定する名前または値を表します。
- 図の中に句読点がない場合は、キーワードおよびパラメーターを 1 つ以上のスペースで区切ります。
- 句読記号、括弧、算術演算子、およびその他の記号は、図に示されているとおりに入力してください。
- 脚注は、(1) のように、括弧の中に数字を入れた形で示されます。

付録 D. IBM の窓口

お客様サポート、ソフトウェア・サービス、製品情報、および全般情報について、IBM と連絡を取ることができます。また、製品についてのフィードバックを行うことができます。

次の表に、お客様サポート、ソフトウェア・サービス、研修、製品およびソリューション情報に関するリソースをリストしています。

表 5. IBM リソース

リソース	説明と場所
IBM サポート・ポータル	サポート情報は、 www.ibm.com/support/entry/portal/Software/Information_Management/InfoSphere_Information_Server で、製品と関心のあるトピックを選択してカスタマイズできます。
ソフトウェア・サービス	ソフトウェア、IT、およびビジネス・コンサルティング・サービスについての情報は、「ソリューション」サイト www.ibm.com/businesssolutions/jp/ja にアクセスしてください。
My IBM	www.ibm.com/account/jp/ja/ の「My IBM」サイトでアカウントを作成し、特定のテクニカル・サポートのニーズに合うように、IBM Web サイトおよび情報へのリンクを管理できます。
研修と認定	個人、法人、および公共団体向けに、IT 技術の習得、維持、最適化を目的としてデザインされた技術研修およびサービスについては、 http://www.ibm.com/training にアクセスしてください。
IBM 担当員	ソリューションについて IBM 担当員と連絡を取るには、 www.ibm.com/connect/ibm/us/en/ にアクセスしてください。

付録 E. 製品資料へのアクセス

資料は、オンラインの IBM Knowledge Center、オプションでローカルにインストールしたインフォメーション・センター、PDF のブックといったさまざまな形式で提供されます。製品クライアント・インターフェースから、オンラインまたはローカルにインストールしたヘルプに直接アクセスすることができます。

IBM Knowledge Center は、InfoSphere Information Server の最新情報を探すのに最適な場所です。IBM Knowledge Center には、スイートのすべての製品モジュールの全資料のほか、ほとんどの製品インターフェースのヘルプも含まれています。IBM Knowledge Center は、インストール済み製品から開くことも、Web ブラウザーから開くこともできます。

IBM Knowledge Center へのアクセス

オンライン資料にアクセスするには、さまざまな方法があります。

- クライアント・インターフェースで、画面右上の「ヘルプ」リンクをクリックします。
- F1 キーを押します。F1 キーを押すと、通常、クライアント・インターフェースの現行コンテキストを説明するトピックが開きます。

注: F1 キーは、Web クライアントでは機能しません。

- 製品にログインしていないときなどに、Web ブラウザーにアドレスを入力します。

すべてのバージョンの InfoSphere Information Server の資料にアクセスするには、以下のアドレスを入力します。

<http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ/>

特定のトピックにアクセスするには、製品 ID とバージョン番号、資料プラグイン名、および URL 内のトピック・パスを指定します。例えば、バージョン 11.3 用のこのトピックの URL は以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

http://www.ibm.com/support/knowledgecenter/SSZJPZ_11.3.0/⇒com.ibm.swg.im.iis.common.doc/common/accessingiidoc.html

ヒント:

Knowledge Center には、以下の短縮 URL もあります。

<http://ibm.biz/knowctr>

特定の製品ページ、バージョン、またはトピックの短縮 URL を指定するには、短縮 URL と製品 ID の間にハッシュ文字 (#) を使用します。例えば、すべての InfoSphere Information Server 資料の短縮 URL は、以下のとおりです。

<http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ/>

また、前述のトピックの URL を少し短くした短縮 URL は、以下のとおりです。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

```
http://ibm.biz/knowctr#SSZJPZ_11.3.0/com.ibm.swg.im.iis.common.doc/⇒  
common/accessingiidoc.html
```

ローカルにインストールした資料を参照するヘルプ・リンクの変更

IBM Knowledge Center には、最新版の資料が含まれています。一方、インフォメーション・センターとしてローカル版の資料をインストールして、それを指すようにヘルプ・リンクを構成することも可能です。ローカルのインフォメーション・センターは、お客様の企業でインターネットへのアクセスが提供されていない場合に便利です。

インフォメーション・センターのインストール・パッケージに付属するインストール手順を使用して、任意のコンピューターにそれをインストールします。インフォメーション・センターをインストールして開始した後、サービス層のコンピューターで **iisAdmin** コマンドを使用して、製品の F1 とヘルプ・リンクで参照する資料の場所を変更できます。(記号「⇒」は、行の継続を表します)

Windows

```
IS_install_path\ASBServer\bin\iisAdmin.bat -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

AIX® Linux

```
IS_install_path/ASBServer/bin/iisAdmin.sh -set -key ⇒  
com.ibm.iis.infocenter.url -value http://<host>:<port>/help/topic/
```

ここで、<host> はインフォメーション・センターがインストールされたコンピューターの名前、<port> はインフォメーション・センターのポート番号です。デフォルトのポート番号は 8888 です。例えば、デフォルト・ポートを使用するコンピューター server1.example.com 上の URL 値は、`http://server1.example.com:8888/help/topic/` になります。

PDF およびハードコピー資料の入手

- PDF ファイルのブックはオンラインで利用可能で、サポートの文書 `https://www.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg27008803&wv=1` からアクセスできます。
- IBM 資料は、オンラインでダウンロード、または IBM 担当員を通じてご注文いただけます。資料をオンラインでダウンロードするには `http://www.ibm.com/e-business/linkweb/publications/servlet/pbi.wss` の IBM Publications Center にアクセスしてください。

付録 F. 製品資料に関するフィードバックの提供

IBM の資料に関する貴重なフィードバックをご提供ください。

お客様からのご意見やご感想は、IBM が質の高い情報を提供するための参考にさせていただきます。ご意見をお寄せいただく場合は、次のいずれかの方法を使用することができます。

- IBM の Web サイトでホストしている IBM Knowledge Center 内のトピックについてコメントをお寄せいただくには、サインインし、トピックの下の「**コメントの追加**」ボタンをクリックしてコメントを追加してください。このようにして送信されたコメントは、一般に公開されます。
- IBM Knowledge Center 内のトピックに関するコメントを IBM に送信し、他の人からは閲覧できないようにするには、サインインし、IBM Knowledge Center の下の「**フィードバック**」リンクをクリックしてください。
- オンライン・リーダー用のコメント・フォーム (www.ibm.com/software/awdtools/rcf/) を使用して、コメントを送信します。
- コメントを E メールで comments@us.ibm.com に送付します。お送りいただく情報には、製品の名前、製品のバージョン番号、資料の名前と部品番号 (該当する場合) を含めてください。特定のテキストについてご意見がある場合は、そのテキストの位置 (例えば、タイトル、表番号、ページ番号など) を記載してください。

特記事項および商標

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。この資料は、IBM から他の言語でも提供されている可能性があります。ただし、ご利用にはその言語版の製品もしくは製品のコピーを所有していることが必要な場合があります。

特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
J46A/G4
555 Bailey Avenue
San Jose, CA 95141-1003 U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、さまざまなオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されて

います。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. _年を入れる_. All rights reserved.

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

プライバシー・ポリシーに関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項を確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッションごとの Cookie または永続的な Cookie を使用する場合があります。製品またはコンポーネントがリストされていない場合、その製品またはコンポーネントは Cookie を使用しません。

表 6. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない

表 6. InfoSphere Information Server 製品およびコンポーネントによる Cookie の使用 (続き)

製品モジュール	コンポーネントまたは機能	使用される Cookie の種類	収集するデータ	データの目的	Cookie の無効化
すべて (InfoSphere Information Server インストール済み環境の部分)	InfoSphere Metadata Asset Manager	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 拡張されたユーザーのユーザビリティ シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere DataStage	Big Data File ステージ	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 デジタル署名 セッション ID 	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere DataStage	XML ステージ	セッション	内部 ID	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere DataStage	IBM InfoSphere DataStage and QualityStage® Operations Console	セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere Data Click	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere Data Quality Console		セッション	個人情報でない	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere QualityStage Standardization Rules Designer	InfoSphere Information Server Web コンソール	<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	ユーザー名	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 	無効にできない
InfoSphere Information Governance Catalog		<ul style="list-style-type: none"> セッション 永続 	<ul style="list-style-type: none"> ユーザー名 内部 ID ツリーの状態 	<ul style="list-style-type: none"> セッション管理 認証 シングル・サインオン構成 	無効にできない
InfoSphere Information Analyzer	InfoSphere DataStage and QualityStage Designer クライアントの中の Data Rules ステージ	セッション	セッション ID	セッション管理	無効にできない

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライ

ン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含むさまざまなテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』 (<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』 (<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com)[®] は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

Adobe は、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、Itanium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft、Windows および Windows NT は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Java[™] およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

お客様サポート
連絡先 15

[カ行]

概要 1
機能 3
グリッド・エディター 6
構成要件 1
構文
 コマンド・ライン 11
コマンド
 構文 11
コマンド・ライン構文
 規則 11

[サ行]

サポート
 お客様 15
自動モード 4, 8
手動モード 4, 8
商標
 リスト 21
制御ファイル 4, 6
製品資料
 アクセス 17
製品のアクセシビリティ
 アクセシビリティ 9
前提条件 1
ソフトウェア・サービス
 連絡先 15

[タ行]

特殊文字
 コマンド・ライン構文での 11
特記事項 21

[ナ行]

入力プロパティ 6
入力リンク 1

[マ行]

マッピング、ストリング・データの 2

[ヤ行]

用語 3

W

Web サイト
 IBM 以外 13



Printed in Japan

SC43-0963-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21